

原 著

小中学生における親子関係と自尊感情との関連：
家庭の経済状況とヤングケアラーの視点からヤマザキテイイチロウ 山崎貞一郎*
シヨウジ 庄司
ヒトシ 齊*,2*
イワクラ マサヒロ 岩倉 正浩*
ジョン 鄭
ソノイ 松伊*
ノムラ キョウコ 野村 恭子*

目的 小中学生を対象に、家庭の経済状況やヤングケアラーかどうかを統計的に調整した上で、子ども自身が評価した親子関係が自尊感情と関連するかを検討した。

方法 2024年に由利本荘市内の小学5年生、中学2年生を対象に実施された質問票調査の回答データ893人分を用いた。曝露である「親子関係が良くない」は、6つの質問中1つ以上の質問で「やや当てはまらない/当てはまらない」と回答した場合と定義した。主要アウトカムの自尊感情は、東京都版自尊感情測定尺度の合計値(3~12)を用いた。家庭の経済状況に「余裕がない」は、家庭の暮らしぶりが「やや余裕がない/とても余裕がない」と回答した場合とした。ヤングケアラーは家族の世話をしており、かつ、それが生活に影響していると回答した子どもとした。線形回帰モデルを用い、自尊感情尺度の合計値を被説明変数、親子関係(参照:良い)、家庭の経済状況(参照:余裕あり)、ヤングケアラー(参照:非該当)、その他の共変量を説明変数とし、偏回帰係数(各説明変数の参照群に対する自己肯定感尺度の合計値の差)の点推定値と95%信頼区間(CI)を推定した。

結果 対象者は、女性49%、小学5年生52%、ひとり親世帯17%、親子関係が良くない者23%、経済状況に余裕がない者10%、ヤングケアラー2%で、自尊感情尺度は中央値9.5点だった。基本特性を比較すると、親子関係が良くない者は良い者に比べ、女性・自覚的な健康状態が良くない者・経済状況に余裕がない者の割合がそれぞれ高く、相談できる人がいる者の割合が低い、という特徴があった。自尊感情尺度の合計値は、親子関係が良くないと-0.98点有意に低かった(95% CI; -1.19, -0.77)。また、経済状況に余裕がないと-0.21(95% CI; -0.50, 0.09)、ヤングケアラーに該当すると0.25(95% CI; -0.26, 0.75)であった。

結論 以上から親子関係は、家庭の経済状況によらず、小中学生における自尊感情の発達における中核的な要因である可能性が示唆された。

Key words : 自尊感情, 親子関係, 小中学生, 経済状況, ヤングケアラー

日本公衆衛生雑誌 2026; 73(5): 429-437. doi:10.11236/jph.25-062

I 緒 言

自尊感情とは、自己の受容や尊重を表す肯定的な自己評価である¹⁾。自尊感情が高いことは、人間関係(親密さ、社会的つながりなど)、学業(成績や退学など)、仕事(職務満足度や職業的成功など)、精神的健康(不安や抑うつ)、身体的健康(健康問

題や身体機能など)、反社会的行動(犯罪や非行など)など、幅広い側面に肯定的な結果をもたらす¹⁾。子ども期、とくに思春期は自尊感情が低下しやすい脆弱な時期とされ、この時期の低い自尊感情は成人期のうつ症状や不適応行動につながるリスク要因となることが報告されている^{2,3)}。また、自尊感情は比較的安定した特性であり、青年期までに形成された水準はその後の数十年にわたり持続する傾向があるため、この時期までに自尊感情を高めることの意義は大きい⁴⁾。

子どもの自尊感情には、社会経済的状況⁵⁾、友人関係⁶⁾、いじめ⁷⁾、教師や他生徒との関係性や学校

* 秋田大学大学院医学系研究科衛生学・公衆衛生学講座
2* 由利本荘市社会福祉協議会本荘支所
責任著者連絡先: ☎010-8543 秋田市本道1-1-1
秋田大学大学院医学系研究科衛生学・公衆衛生学講座 野村恭子
E-mail: knomura@med.akita-u.ac.jp

への所属感⁸⁾、身体活動⁹⁾など多様な要因が関連する。なかでも親との関係性は、子どもが過ごす時間が長く、その関係性が発達に重大な影響を与えること¹⁰⁾、介入により改善の可能性があることから、子どもの自尊感情に関連する重要な要素と考えられる。親子関係の定義は一意ではないが、親子関係と自尊感情との関連を検討したメタ解析では、受容や情緒的支援、信頼に基づいたコミュニケーション、適切な行動や活動の監督、親への愛着の安定性などが促進因子として、過保護や自立性の欠如などが阻害因子として特定されている^{11,12)}。

親子関係と子供の自尊感情を検討する上で重要な因子がある。第一に、家庭の経済状況である。先行研究によれば、貧困世帯であると親子関係のスコアが非貧困世帯より低いこと¹³⁾、また貧困が親の子への関わりを介して子どもの自尊感情の低下と関連すること¹⁴⁾が報告されている。ただし、この研究で親の関わりへの評価は、ほとんどが親によるものであった¹⁴⁾。親子関係に関して子どもと親の評価が一致しないという報告もあり¹⁵⁾、自尊感情との関連や経済状況の影響が、子ども本人の視点から評価されることが重要である。

第二に、近年、「家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている、18歳未満の子ども」¹⁶⁾であるヤングケアラーが社会問題として認識されている。ヤングケアラーはその責任や負担から親子関係の構築に困難を抱えうるともされ¹⁷⁾、経済状況と同様に、親子関係と自尊感情との関連を交絡する可能性がある。しかし我々が知る限り、これを検討した先行研究はない。

さらに、前述の親子関係と自尊感情との関連や経済状況・ヤングケアラーの影響を検討した先行研究の多くが海外で実施されており^{5,11~13,15,17)}、日本人を対象にこれらを検証することは、本邦の子どもたちへの支援を考える上で重要である。

そこで本研究では、小中学生を対象に、子ども自身が評価した親子関係が、家庭の経済状況やヤングケアラーかどうかを統計的に調整した上で、自尊感情と関連するかを検討した。

II 研究方法

1. 対象

本研究は秋田県由利本荘市社会福祉協議会が市の関係部署や教育委員会と実施した「子供の生活・親子関係に関するアンケート調査」を二次利用した。調査は、2024年2月に市内の小学5年生と中学2年

生1,090人を対象に匿名で実施され、896人(82%)から回答が得られた。本研究では、主要な変数がすべて欠測だった3人を除外し、893人を解析対象とした。調査にあたって、対象の子どもとその保護者に対し、目的、無記名で個人が特定されないこと、回答は任意であること、得られたデータの解析結果が研究目的で公表される可能性があることを文書で説明した。調査は授業時間内に実施され、児童・生徒本人が回答し、封筒に入れ専用の回収箱で社会福祉協議会職員が回収した。無記名式の調査であったことから、調査票を返却したことで同意が得られたものとした。本研究は秋田大学大学院医学系研究科・医学部倫理委員会の承認を得て実施した(承認番号:3213,許可日:2024年9月24日)。

2. 親子関係

親子関係に関する質問は、札幌市の調査¹⁸⁾をもとに作成された6項目を用いた:①親は私の言うことを真剣に聞いてくれる、②親は私の気持ちを分かってくれる、③親は困っているときに励ましてくれる、④親は私の興味やふだんの生活のことを知っている、⑤ふだんの生活について親と話し合う、⑥親は私が外出するときの行先や誰と一緒にかを知っている。各質問は「当てはまる」～「当てはまらない」の5件法で尋ねた(Cronbachの α 係数0.84)。1項目以上で「やや当てはまらない/当てはまらない」と回答した場合を、親子関係が「良くない」、それ以外を「良い」とし、親子関係が良くない=1、良い=0とするダミー変数とした。

3. 家庭の経済状況・ヤングケアラー

経済状況は、「あなたから見て、お家の暮らしはどう見えますか。」という質問に対し、「とても余裕がある」～「とても余裕がない」「わからない」の6件法で尋ねた。「やや余裕がない/とても余裕がない」と回答した場合を経済状況に「余裕なし」、それ以外を「余裕あり」とし、余裕なし=1、余裕あり=0とするダミー変数とした。

ヤングケアラーは過去の調査¹⁹⁾をもとに以下の2条件を満たす子どもと定義した。①「家族の中に高齢や病気、身体が不自由、おさないなどの理由により、あなたがお世話をしている人はいますか」という質問に対し「いる」と回答した者。②上記①で「いる」と回答した者のうち、「あなたは、家族のお世話をすることで、次のようなことやあきらめたことはありますか。(複数回答可)」という質問で、1つ以上に該当すると回答した者。なお、②の項目は以下の9項目であった:「学校に行けないことがある」「学校を遅刻・早退する」「勉強する時間がない」「睡眠が十分にとれない」「友人と遊べない」

「部活動やスポ少, 習いごとができない」「自分の自由な時間がない」「自分が自由に過ごせる場所がない」「学校に通うことの意味が分からなくなる」。上記2条件の両方を満たした子どもを「ヤングケアラー該当」, それ以外を「非該当」とし, ヤングケアラー該当=1, 非該当=0とするダミー変数とした。

4. 自尊感情

自尊感情は, 東京都版自尊感情測定尺度で測定した²⁰⁾。尺度は, 自己評価・自己受容(8項目), 関係の中での自己(7項目), 自己主張・自己決定(7項目)からなる。すべて「あてはまる(4)」～「当てはまらない(1)」の4件法で質問され, 3要素の平均値(各1~4)を算出, その合計(3~12)を用いた。値が高いほど自尊感情が高いことを示す。Cronbachの α 係数は全22項目で0.91, 3要素の平均値で0.83であった。

5. その他の変数

共変量として, 性別, 学年, 家族構成, 直近2週間の健康状態, 相談できる人の有無を用いた。性別は男=1, 女=2, わからない=3の名義変数で, 男性を参照とした。学年は小学5年=0, 中学2年=1とした。家族構成は, 両親と同居=1, ひとり親+祖父母と同居=2, ひとり親または祖父母とのみ同居=3の名義変数で, 両親と同居を参照とした。直近2週間の健康状態(良くない~良いの5件法)は順序変数, 相談できる人は, いる=1, いない=0のダミー変数とした。

6. 統計解析

順序変数は中央値(四分位範囲), 名義変数は人数(%)で集計した。

親子関係・経済状況・ヤングケアラーと自尊感情との関連は, 自尊感情尺度を結果変数, 親子関係・家庭の経済状況・ヤングケアラーの3変数を曝露変数とし, 上述の共変量で調整した多変量線形回帰モデルを用いた。親子関係良い(参照:良くない), 経済状況余裕あり(参照:余裕なし), ヤングケアラー非該当(参照:該当)の, 自尊感情尺度の合計値の差の偏回帰係数と95%信頼区間(95% Confidence Interval, 95% CI)を推定し, 自由度調整済み決定係数も算出した。

感度分析として, 第一に親子関係の定義について, 6つの質問のうち「やや当てはまらない/当てはまらない」と回答した質問数を1~6問まで変更し, それぞれのarea under the curve (AUC)を算出し, Delong検定で比較し親子関係の定義の精度を検討した。AUCは0.7以上で許容できると考えられている²¹⁾。アウトカム変数は, 自尊感情尺度の合計

の中央値を用い, 中央値未満を自尊感情が低い, 中央値以上を高いとする2値変数, その他の変数は主解析と同一とし, 親子関係を6パターン変更したロジスティック回帰モデルを用いた。第二にヤングケアラーの定義を, あきらめたことが2つ以上, 3つ以上, 4つ以上, 5つ以上と4パターンを作成し, それぞれ主解析と同一モデルで, 線形回帰モデルを再解析した。

説明変数の欠測は連鎖方程式による多重代入法を用い補完した²²⁾。解析に用いた全変数を用い50個の代入データセットを作成, ルービンのルールに従って回帰分析で得られた偏回帰係数と調整有症割合の点推定値と信頼区間を統合した²³⁾。なお, 自由度調整済み決定係数については統合することが適さないため, 平均値と標準偏差, 最大値, 最小値を算出した。本研究では, すべての回帰分析で多重代入後のデータセットを用いた。

検定はすべて両側検定, 有意水準は0.05, 解析はSAS 9.4 (SAS Institute, Inc.)を用いた。

III 研究結果

1. 対象者の特性

対象者全体の基本特性は, 女性433人(49%), 小学5年生463人(52%), ひとり親世帯148人(17%), 自尊感情9.5(8.5~10.5)点, 親子関係が良くない200人(23%), 経済状況に余裕なし91人(10%), ヤングケアラー20人(2%)であった(表1)。親子関係が良くない者は, 良い者に比べ, 女性・小学5年生・ひとり親世帯・最近2週間の健康状態が良くない者・経済状況に余裕がない者が多く, 自尊感情尺度は合計・領域別とも低かった。また, 家庭の経済状況に余裕がない者は, 余裕がある者に比べ, 女性・中学2年生・ひとり親世帯・健康状態が良くない者・親子関係が良くない者が多く, 相談できる人がいる者が少なく, 自尊感情が低かった(表1)。同様に, ヤングケアラーの該当者は, 非該当者に比べ, 女性・小学5年生・最近2週間の健康状態が良くない者・経済状況に余裕がない者・親子関係が良くない者が多く, 相談できる人がいる者が少なく, 自尊感情はわずかに高かった(表1)。

2. 親子関係, 家庭の経済状況およびヤングケアラーと自尊感情との関連

多変量線形回帰分析の結果, 自尊感情尺度の合計値は, 親子関係が良い者に比べ, 良くない者で -0.98 (95% CI; $-1.19, -0.77$; $P < 0.001$)と有意に低かった(表2)。経済状況は, 余裕がある者に比べ, 余裕がない者で -0.21 (95% CI; $-0.50, 0.09$; $P = 0.17$), ヤングケアラーの非該当者に比べ, 該当

表1 対象者の基本特性

変数	親子関係		経済状況			ヤングケアラー	
	全体 n = 893	良い n = 659	良くない n = 200	余裕あり n = 790	余裕なし n = 91	非該当 n = 843	該当 n = 20
女性, 人 (%)	433 (49)	322 (49)	111 (56)	378 (48)	52 (57)	404 (48)	14 (70)
小学5年生, 人 (%)	463 (52)	336 (51)	107 (54)	416 (53)	43 (47)	428 (51)	13 (65)
同居保護者							
ひとり親+祖父母, 人 (%)	62 (7)	40 (6)	16 (8)	52 (7)	10 (11)	59 (7)	2 (10)
ひとり親/祖父母のみ, 人 (%)	86 (10)	62 (9)	21 (10)	67 (8)	16 (18)	78 (9)	1 (5)
最近2週間の健康状態							
よくない/どちらかといえはよくない, 人 (%)	147 (17)	91 (14)	50 (25)	121 (15)	23 (26)	134 (16)	5 (25)
相談できる人がいる, 人 (%)	758 (86)	589 (90)	143 (42)	677 (86)	72 (80)	718 (86)	14 (70)
家庭の経済状況							
やや余裕がない/とても余裕がない, 人 (%)	91 (10)	59 (9)	29 (14)	—	—	84 (10)	4 (20)
ヤングケアラーに該当, 人 (%)	20 (2)	10 (2)	6 (3)	16 (2)	4 (5)	—	—
世話をしている人がいる, 人 (%)	113 (13)	83 (13)	23 (12)	96 (12)	16 (18)	93 (11)	20 (100)
学校に行けない, 人 (%)*	2 (2)	1 (1)	0	2 (2)	0	0	2 (10)
遅刻・早退する, 人 (%)*	4 (4)	2 (3)	0	4 (4)	0	0	4 (20)
勉強する時間がない, 人 (%)*	6 (5)	4 (5)	0	4 (4)	2 (13)	0	5 (25)
睡眠がとれない, 人 (%)*	4 (4)	3 (0)	0	4 (4)	0	0	4 (20)
友人と遊べない, 人 (%)*	4 (4)	3 (0)	0	3 (3)	1 (6)	0	4 (20)
部活やスポーツができない, 人 (%)*	4 (4)	1 (1)	1 (6)	4 (4)	0	0	4 (20)
自由な時間がない, 人 (%)*	12 (11)	7 (9)	4 (22)	9 (9)	3 (19)	0	12 (60)
自由な場所がない, 人 (%)*	6 (5)	2 (3)	3 (17)	5 (5)	1 (6)	0	6 (30)
学校に通う意味が分からない, 人 (%)*	3 (3)	1 (1)	1 (6)	3 (3)	0	0	3 (15)
親子関係が良くないに該当, 人 (%)	200 (23)	—	—	171 (22)	29 (33)	188 (23)	6 (37)
親は言うことを真剣に聞いてくれる							
ややあてはまらない/あてはまらない, 人 (%)	38 (4)	0	36 (18)	28 (4)	10 (11)	35 (4)	3 (15)
親は自分の気持ちを分かってくれる							
ややあてはまらない/あてはまらない, 人 (%)	79 (9)	0	74 (37)	61 (8)	16 (18)	72 (9)	4 (20)
親は困っているときに励ましてくれる							
ややあてはまらない/あてはまらない, 人 (%)	51 (6)	0	48 (24)	39 (5)	12 (13)	46 (6)	4 (20)

表1 対象者の基本特性 (つづき)

変数	親子関係		経済状況			ヤングケアラー	
	良い n = 659	良くない n = 200	余裕あり n = 790	余裕なし n = 91	非該当 n = 843	該当 n = 20	
全体 n = 893							
親は自分の興味があることを知っている ややあてはまらない/あてはまらない, 人 (%)	0	46 (23)	37 (5)	10 (11)	44 (5)	1 (6)	
親とよく話し合う ややあてはまらない/あてはまらない, 人 (%)	0	125 (62)	110 (14)	18 (20)	120 (14)	4 (22)	
親は自分の行き先を知っている ややあてはまらない/あてはまらない, 人 (%)	0	50 (25)	45 (6)	8 (8)	51 (6)	2 (11)	
自尊心尺度合計値, 中央値 (四分位範囲)	9.5 (8.5-10.5)	8.5 (7.3-9.5)	9.6 (8.5-10.5)	9.0 (7.6-10.4)	9.5 (8.4-10.5)	9.7 (8.8-10.5)	
自己評価・自己受容	3.0 (2.5-3.5)	3.1 (2.6-3.5)	3.0 (2.5-3.5)	2.6 (2.2-3.4)	3.0 (2.5-3.5)	2.9 (2.7-3.4)	
関係の中の自己	3.3 (3.0-3.6)	3.4 (3.1-3.7)	3.3 (3.0-3.7)	3.3 (2.9-3.6)	3.3 (3.0-3.6)	3.4 (2.9-3.6)	
自己主張・自己決定	3.1 (2.9-3.6)	3.3 (3.0-3.7)	3.2 (2.9-3.6)	3.0 (2.6-3.4)	3.1 (2.9-3.6)	3.1 (2.9-3.7)	

%は欠損値除外後の値。* 各列の「世話をしている人がいる」と答えた人数に対する割合。

者では0.25 (95% CI; -0.26, 0.75; $P=0.34$) と関連は有意ではなかった (表2)。50の代入データセットにおける自由度調整済み決定係数は, 平均0.245 (最小0.229-最大0.259) であった。

3. 感度分析

親子関係の定義を変更し AUC を推定した結果, 「やや当てはまらない/当てはまらない」と回答した質問数1項目以上で親子関係が良くないと定義した場合に最も高く, 0.758 (95% CI, 0.723-0.793) であった (表 S1)。また, ヤングケアラーの定義を変更しアウトカムとの関連を再解析したが, 自尊心との関連については主解析と同様であった (表 S2)。

IV 考 察

本研究の結果, 親子関係が良いことと子どもの自尊心の高さが, 家庭の経済状況やヤングケアラーであるかで統計学的に調整しても, 有意に関連した。この結果は, 親子関係と自尊心^{11,12)} との関連を示した先行研究と一致している。また, 親の評価による子どもへの関わりと自尊心との関連が報告されているが¹⁴⁾, 本研究は子ども自身が評価した親子関係が, 自尊心と関連することを示した。次に, 家庭の経済状況やヤングケアラーであるかは, 自尊心とは有意な関連を示さなかった。この知見は, 子どもが置かれている家庭の状況によらず, 広く子どもの精神的健康の向上のための, 良好な親子関係の構築支援の重要性や今後の政策への寄与を示唆するものである。

良好な親子関係が自尊心と関連する背景には, 心理社会的なメカニズムが関与していると考えられる。愛着理論によれば, 親から安定した愛情や受容を得ることで「自分は価値があり愛される存在である」という内的作業モデルが形成され, これが肯定的な自己評価につながる¹¹⁾。また, シンボリック相互作用論の立場からも, 子どもの自尊心は, 養育者など重要な他者による評価を継続的な社会的相互作用の中で内在化することによって発達するとされる¹¹⁾。さらに, 情緒的受容や信頼に基づくコミュニケーション, 適切な行動の監督は, 安心感や安定感を提供し, 自尊心を高める要因となることが報告されている¹²⁾。一方で, 過干渉や拒否的態度は自尊心を阻害するリスク要因とされる¹²⁾。このような知見は, 本研究の結果と一致しており, 子どもの自尊心に対する, 親子関係を通じた心理社会的支援の重要性を示唆している。

本研究で用いた親子関係の項目は, 子どもによる評価を用いた親子関係と自尊心との関連を扱った

表2 親子関係, 家庭の経済状況, ヤングケアラーと自尊感情との関連

変数	偏回帰係数	95% 信頼区間		P 値
	点推定値	下限	上限	
親子関係良くない (ref. 良い)	-0.98	-1.19	-0.77	<0.01
経済状況余裕なし (ref. 余裕あり)	-0.21	-0.50	0.09	0.17
ヤングケアラー該当 (ref. 非該当)	0.25	-0.26	0.75	0.34
性別 (ref. 男性)				
女性	-0.25	-0.43	-0.07	<0.01
わからない	-0.86	-1.80	0.09	0.08
中学2年 (ref. 小学5年)	0.08	-0.10	0.26	0.37
家族構成 (ref. 両親と同居)				
ひとり親+祖父母と同居	0.14	-0.21	0.49	0.43
ひとり親または祖父母とのみ同居	-0.16	-0.46	0.14	0.30
直近2週間の健康状態	0.33	0.25	0.41	<0.01
相談できる人がいる (ref. いない)	0.86	0.60	1.12	<0.01

自由度調整済み決定係数：平均0.245（標準偏差0.006，最小0.229-最大0.259）

略語：ref., reference. 偏回帰係数および95% 信頼区間は各説明変数の参照群に対する自己肯定感尺度の合計値の差を示す。説明変数の欠測は連鎖方程式による多重代入法で代入した。調整済み R2 乗値は作成した50の代入データセットの要約統計量である。

メタ解析¹²⁾で示された, 親の支援(支持的な支援, 受容, 情緒的支援など), 信頼に基づいた統制(民主的なコミュニケーションや関係など), 行動統制(監督, 活動や所在の追跡)といった促進因子と整合的であった。既存の尺度を参照すると, 「親は私の言うことを真剣に聞いてくれる」は情緒的支持²⁴⁾, 「親は私の気持ちを分かってくれる」は情緒的受容²⁴⁾, 信頼²⁵⁾, 「親は困っているときに励ましてくれる」は情緒的支持²⁴⁾, 「親は私の興味やふだんの生活のことを知っている」と「親は私が外出するときの行先や誰と一緒に知っている」は不十分な監護^{26,27)}, 「ふだんの生活について親と話し合う」は関わり^{26,27)}にそれぞれ対応すると推察される。よって, 本研究で用いた質問群は, 自尊感情との関連が認められた親子関係に関する要素を含んでいたと思われる。

経済状況は, 自尊感情と関連しなかった。先行研究では, 保護者の年収に基づく貧困と自尊感情との関連を, 親の関わりが媒介したことが報告されているが¹⁴⁾, 本研究で経済状況は子どもの主観的評価であり, 自尊感情の測定尺度も異なる¹⁴⁾。こうした違いが結果の差異に影響した可能性がある。ヤングケアラーについても, 本研究では自尊感情との関連は認めなかった。イギリスの縦断研究では, ヤングケアラーになることは人生の満足度低下と関連していたことから²⁸⁾, 自尊感情以外の面で子どもに負の影響を及ぼす可能性がある。

本研究の限界を以下に述べる。第一に, 使用した

親子関係の指標は, 妥当性が検証されていない。内的整合性はCronbachの $\alpha = 0.84$ と比較の高かったが, 今後は, 妥当性が確認された指標を用いることが望ましい。第二に, 先行研究で指摘されている親の性別による親子関係と自尊感情との関連の違いを考慮できていない²⁹⁾。第三に, 経済状況は子供の主観的評価によるものであり, 保護者の年収情報を用いた先行研究¹⁴⁾と比較し, 測定誤差が大きかった可能性がある。一方で, 子どもが評価した家庭の経済状況と親の報告した年収とに中程度の相関を示したとする報告もあり³⁰⁾, ある程度の妥当性はあったと推察する。将来的に保護者への調査も併用し, 精度を高める必要がある。第四に本研究は横断研究であり, 親子関係が将来的な自尊感情の変化に因果的に関連するかは言及できない。今後, 前向き研究により因果関係を明らかにすることが重要である。最後に, 本研究は一自治体の小学5年生, 中学2年生のみを対象とした調査であり, 結果の一般化には限界がある。

V 結 語

本研究の結果から, 親子関係は, 小中学生における自尊感情の発達において, 中核的な保護要因となりうるという仮説が得られた。今後は, 前向き研究を通じて因果関係を解明するとともに, 多様な関係者と連携し, 親子関係への介入方法や支援体制の構築が求められる。

本研究の実施にあたり、調査にご協力頂きました由利本荘市内の小中学生および保護者の皆さま、データの提供および研究にご協力頂きました由利本荘市社会福祉協議会、由利本荘市、由利本荘市教育委員会に謝意を表します。

本研究に関して開示すべき利益相反（COI）はありません。

Supporting Information

Supplemental online material is available on J-STAGE.

URL: <https://doi.org/10.11236/jph.25-062>

{	受付	2025. 5. 1
	採用	2025.10.27
	J-STAGE 早期公開	2026. 1.16

文 献

- 1) Orth U, Robins RW. Is high self-esteem beneficial? Revisiting a classic question. *Am Psychol* 2022; 77: 5–17.
- 2) Trzesniewski KH, Donnellan MB, Moffitt TE, et al. Low self-esteem during adolescence predicts poor health, criminal behavior, and limited economic prospects during adulthood. *Dev Psychol* 2006; 42: 381–390.
- 3) Steiger AE, Allemand M, Robins RW, et al. Low and decreasing self-esteem during adolescence predict adult depression two decades later. *J Pers Soc Psychol* 2014; 106: 325–338.
- 4) Orth U, Robins RW. The development of self-esteem. *Curr Dir Psychol Sci* 2014; 23: 381–387.
- 5) Veselska Z, Madarasova Geckova A, Gajdosova B, et al. Socio-economic differences in self-esteem of adolescents influenced by personality, mental health and social support. *Eur J Public Health* 2010; 20: 647–652.
- 6) Gorrese A, Ruggieri R. Peer attachment and self-esteem: a meta-analytic review. *Pers Individ Dif* 2013; 55: 559–568.
- 7) Mullan VMR, Golm D, Juhl J, et al. The relationship between peer victimisation, self-esteem, and internalizing symptoms in adolescents: a systematic review and meta-analysis. *PLOS ONE* 2023; 18: e0282224.
- 8) Aldridge JM, McChesney K. The relationships between school climate and adolescent mental health and wellbeing: a systematic literature review. *Int J Educ Res* 2018; 88: 121–145.
- 9) Fu Q, Li L, Li Q, et al. The effects of physical activity on the mental health of typically developing children and adolescents: a systematic review and meta-analysis. *BMC Public Health* 2025; 25: 1514.
- 10) Frosch CA, Schoppe-Sullivan SJ, O'Banion DD. Parenting and child development: a relational health perspective. *Am J Lifestyle Med* 2019; 15: 45–59.
- 11) Pinquart M. Associations of self-esteem with attachment to parents: a meta-analysis. *Psychol Rep* 2023; 126: 2101–2118.
- 12) Tehrani HD, Yamini S, Vazsonyi AT. The links between parenting, self-esteem, and depressive symptoms: a meta-analysis. *J Adolesc* 2025; 97: 315–332.
- 13) Ho LLK, Li WHC, Cheung AT, et al. Impact of poverty on parent-child relationships, parental stress, and parenting practices. *Front Public Health* 2022; 10: 849408.
- 14) Doi S, Fujiwara T, Isumi A, et al. Pathway of the association between child poverty and low self-esteem: results from a population-based study of adolescents in Japan. *Front Psychol* 2019; 10: 937.
- 15) Zhang R, Wang Z. Parent-child discrepancies in perceived parental control and their associations with children's prosocial behaviors in early adolescence within Chinese families. *J Youth Adolesc* 2024; 53: 1101–1118.
- 16) 一般社団法人日本ケアラー連盟. ヤングケアラーとは. <https://youngcarerpj.jimdo.com/> (2025年7月4日アクセス可能).
- 17) 三富紀敬. イギリスの在宅介護者 (MINERVA 社会福祉叢書 8). 東京: ミネルヴァ書房. 2000; 428–431.
- 18) 札幌市. 令和5年度札幌市子どもに関する実態・意識調査報告書. 2024. https://www.city.sapporo.jp/kodomo/kenri/documents/00_chosakekkahokokusyozenbun.pdf (2025年7月2日アクセス可能).
- 19) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング. ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書. 2021. https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2021/04/koukai_210412_7.pdf (2025年4月9日アクセス可能).
- 20) 東京都教職員研修センター. 自尊感情や自己肯定感に関する研究 (第2年次). 平成21年度東京都教職員研修センター紀要 2009; 9: 3–26.
- 21) Hosmer DW, Lemeshow S. *Applied Logistic Regression*. 2nd ed. Hoboken, NJ: John Wiley & Sons. 2000; 160–164.
- 22) Azur MJ, Stuart EA, Frangakis C, et al. Multiple imputation by chained equations: What is it and how does it work? *Int J Methods Psychiatr Res* 2011; 20: 40–49.
- 23) Marshall A, Altman DG, Holder RL, et al. Combining estimates of interest in prognostic modelling studies after multiple imputation: current practice and guidelines. *BMC Med Res Methodol* 2009; 9: 57.
- 24) 辻岡美延, 山本吉廣. 親子関係診断尺度 EICA の作成: 因子の真実性の原理による項目分析. 関西大学社会学部紀要 1976; 7: 1–14.

- 25) 福井義一, 河合三奈子. IPA (Inventory of Parent Attachment) 日本語版の作成及びその信頼性・妥当性の検討. *ヒューマンケア・研究* 2010; 11: 9–20.
 - 26) Frick, P. J. The Alabama Parenting Questionnaire. 1991. Unpublished Rating Scale, Tuscaloosa, AL: University of Alabama.
 - 27) Miki T, Fujiwara T, Yagi J, et al. Impact of parenting style on clinically significant behavioral problems among children aged 4–11 years old after disaster: a follow-up study of the great east Japan earthquake. *Front Psychiatry* 2019; 10: 45.
 - 28) Lacey RE, Letelier A, Xue B, et al. Changes in life satisfaction, self-esteem, and self-rated health before, during, and after becoming a young carer in the UK: a longitudinal, propensity score analysis. *Lancet Reg Health Eur* 2024; 50: 101187.
 - 29) Tran T, Liu Q, Cole DA. Prospective and contemporaneous relations of self-esteem and depressed affect in the context of parent-child closeness during adolescence: A random-intercept cross-lagged panel model. *J Youth Adolesc* 2023; 52: 506–518.
 - 30) Hammond MA, Khurana A, Stormshak EA. Adolescent measures of family socioeconomic status: Reliability, validity, and effects on substance use behaviors in adolescence and young adulthood. *Prev Med Rep* 2021; 21: 101317.
-

Association between parent-child relationships and self-esteem among elementary and junior high school students: Considering household economic status and young carer status

Teiichiro YAMAZAKI*, Hitoshi SHOJI^{2*}, Masahiro IWAKURA*, Songee JUNG* and Kyoko NOMURA*

Key words : self-esteem, parent-child relationships, elementary and junior high school students, household economic status, young carers

Objective This study investigated whether self-rated parent-child relationships are associated with self-esteem among elementary and junior high school students, after statistically adjusting for family economic status and young carer status.

Methods In 2024, 893 anonymous questionnaires were administered among fifth-grade elementary and second-grade junior high school students in Yurihonjo City, Japan. Exposure—defined as a “poor parent-child relationship”—was determined based on responses indicating “somewhat does not apply” or “does not apply” to one or more of six relevant items. Self-esteem was measured using the total score ranging from 3 to 12 on the Tokyo version of the Self-Esteem Scale. “Financial difficulties” were defined as responses indicating that the household’s living conditions were “somewhat difficult” or “very difficult.” Young carers were defined as children who provided care to family members in a manner that affected their daily lives. A linear regression model was used to examine the association between parent-child relationships and self-esteem. The total score on the self-esteem scale was treated as the dependent variable, whereas parent-child relationship (reference: good), household economic status (reference: sufficient), young carer status (reference: non-carer), and additional covariates were included as independent variables. Regression coefficients representing differences in self-esteem scores relative to the reference categories were estimated along with their 95% confidence intervals (CIs).

Results Among the participants, 49% were female, 52% were fifth-grade elementary school students, and 17% lived in single-parent households. A total of 23% participants reported poor parent-child relationships, 10% reported economic difficulties, 2% were young carers, and the median self-esteem score was 9.5. Regarding basic characteristics, children who reported poor parent-child relationships when compared to those with good relationships, exhibited the following features: a higher proportion of females, poorer self-rated health, and limited household economic status, while a lower proportion had someone to consult. After adjusting for covariates, the difference in self-esteem scores was -0.98 (95% CI: -1.19 to -0.77) for poor parent-child relationships. In addition, the total self-esteem scale score was -0.21 (95% CI: -0.50 to 0.09) among those experiencing poorer household economic status and 0.25 (95% CI: -0.26 to 0.75) among those identified as young carers.

Conclusion These findings suggest that parent-child relationships may serve as a key factor in fostering self-esteem among elementary and junior high school students.

* Department of Environmental Health Science and Public Health, Akita University Graduate School of Medicine

^{2*} Yurihonjo City Council of Social Welfare, Honjo Office